

宝塚市協働のまちづくり促進委員会 協働のマニュアル検討部会(第2回 第5期・第2回)ご意見一覧(抜粋)

No	項目	発言者	意見(抜粋)
1	(1) マニュアルの検証	委員	まち協で活動している者だが、協働のマニュアルの内容は非常に常識的と言うか、色々やっている活動は知らないうちにこのマニュアルに沿っているということもたくさんあって、ほぼこのままでも問題はないのではないかと思う。
2	(1) マニュアルの検証	会長	よく「見直す＝変える」というように言われてしまうが、このままでいい、十分使える、という答えもあり。見直すというよりも正確には検証することだと思う。全体を検証してみてこのままでいいのであれば検証は終わりということになるし、この部分を充実させた方がいいという話になるのかを、これからこの部会でやるのか作業班で検証するのか、ということでしょうか。
3	(1) マニュアルの検証	委員	(マニュアルを)全部書き換えるというイメージではないのだろう。加筆していったり、新しい事例を盛り込んでいくようなイメージかと思う。
4	(1) マニュアルの検証	会長	3年ごとに検証してみて、時代に合っていない部分・書き足しておかないといけない部分を見つけていってバージョンアップしていくということが必要なのかなと思う。
5	(1) マニュアルの検証	委員	このマニュアルの見直しも、こういう課題があるから見直さないといけないというスタートではない。3年で見直すと決めたから何かしないといけない、(課題が)あるかないかからやろうかということ。
6	(2) マニュアルの内容 (修正・追記のアイデア等)	委員	協働のマニュアルは、的確に細かい部分が載せられていたので非常にわかりやすい。マニュアルというのはこれを見て参考にしたいという内容の方がいい。
7	(2) マニュアルの内容 (修正・追記のアイデア等)	委員	これから必要なのはやはりデジタル化で、バラバラになっているものをこんな風につなぐこともできるのではないかと、みたいな提案もいいのではと思う。
8	(2) マニュアルの内容 (修正・追記のアイデア等)	委員	協働のテーブルということをもっと少し浮き彫りにして、まち協はいろんな幅広い団体がいてみんなで作っているということをもっとクローズアップされたマニュアルにしたい。そうすれば、もっとみんなが当事者意識を持っているのではないかという気がする。

宝塚市協働のまちづくり促進委員会 協働のマニュアル検討部会(第2回 第5期・第2回)ご意見一覧(抜粋)

No	項目	発言者	意見(抜粋)
9	(2) マニュアルの内容 (修正・追記のアイデア等)	会長	単に情報化の問題ではなくて、やはり使っている道具が違ふと動き方とか仲間の作り方が違ふというところは、(指針が)できて10年近くにもなるし時代もそれだけ進んできたし、特に若い方の動き方が変わってきているということも含めて、情報提供とか説明の仕方を補強するということもありかなと思った。
10	(2) マニュアルの内容 (修正・追記のアイデア等)	委員	このマニュアルというのは、ある面で組織的な中で役に立っていると思うが、新しい動き方をしている人たちへどうマニュアルを広げていくか。逆にそちら用のマニュアルが必要なのかなという風にも考えていかなくてはならない。
11	(2) マニュアルの内容 (修正・追記のアイデア等)	会長	今後増えていくであろうネットワーク型が勝手バラバラにならないようにするための、いわゆる新しいタイプのマネジメントというのは、最低限、情報交換をしっかりとするということが肝要かと思っている。そういうところを解説するというのも必要かと思っている。
12	(3) 担い手・つながり	委員	いわゆる後継者・担い手をどうやって見つけるのかということで、この会で検討を進めるというか、協働のマニュアルの実施例という方向のものができないかという気がしている。
13	(3) 担い手・つながり	事務局	担い手づくりや役員、地域活動の負担という話は、長年言われている普遍的な課題であると思っているが、最近特に担い手不足をどうすればいいのかという相談を耳にすることが増えている。協働を進めようにもそれを担う人がいないと成り立っていかないので、マニュアルの前提の話になってくるかもしれないが、テーマとして取り上げる価値は高いのかなと思う。
14	(3) 担い手・つながり	会長	担い手がないのではなくて、別の形で別のところで動いているのだと思う。そこがなぜ今分かれてしまっているのか、どうすれば一緒にになれるのかを議論していくと色々見えてくるのではないかな。
15	(3) 担い手・つながり	委員	何か物事を決めるときに、どうしても会長の合意が取れなければ決められないとか、それって権限移譲できていないとか、そういうことが担い手不足につながっているのかなと。
16	(3) 担い手・つながり	委員	まち協の中でのタウンミーティングみたいなものがあると、出会いの場みたいなものが作れるのではないかなと思っている。マニュアルとは別に、なにかノウハウみたいなものがまち協の中で共有できたらいいのではないかな。

宝塚市協働のまちづくり促進委員会 協働のマニュアル検討部会(第2回 第5期・第2回)ご意見一覧(抜粋)

No	項目	発言者	意見(抜粋)
17	(3) 担い手・つながり	委員	担い手・後継者の問題について、このマニュアルの中での「つながり」のところが本当にうまくできているのかというのを、もう少し深く掘り下げていく必要がある。つながりづくりをしていくことによって後継者ができるのかなど。
18	(3) 担い手・つながり	委員	つながりというのは、ここで書かれているように既存の組織だけでなく、それ以外の個人的なところのつながりをどうやっていくかということ、もう少しマニュアルでやるのであれば深く掘り下げるのも1つの方法である。後継者をどう育成するかというところに関してもまた別の大きなテーマであるからそれをやるのもいいが、今回のマニュアルという観点で言えば「つながり」のところをもう少し掘り下げていくとどうかというのが意見。
19	(3) 担い手・つながり	委員	管理とソフトということを今までのように全てまち協が主催でということではなくて、まち協も名前を連ねる。そしてマネジメント責任というか、そういう部分では力を入れる。そういうことで協働のテーブルから事業が生まれ、1つの事業をみんなでするというところでまたつながり、そこからまた新しい担い手が生まれるのではないかと思う。
20	(3) 担い手・つながり	会長	発意 からつながりをどのように作っていけばより色々な人たちがつながっていけるのだろうか。このあたりをもう少し解説した方がいいのではないかとことだと思ふ。
21	(4) 今後のマニュアル部会の進め方について	委員	マニュアルから少し離れて、担い手という問題点を市民の方、まちづくり協議会の方が検討する場を考えたどうかと思う。実際にこうやったらいいというマニュアルというよりも、アイデアを交換できるような場をこの委員会で取り持つような動きができないだろうか。
22	(4) 今後のマニュアル部会の進め方について	委員	マニュアル策定部会は作業部会で作ったのであれば作業部会でやるというのが1番すっきりいくことだと思ふし、まちづくり協議会が、宝塚市の総合型のまちづくり協議会に会則上なっていないとか、担い手の問題がこれからはまち協に限らず大事なことだという他のテーマは、先ほど言った促進委員会の2つ目の目的「重要なことについてここで話し合っ、結論を持って意見を公表していく・検討していく」という流れに任せるのが1番いいやり方ではないか。新たに部会を作るかということであれば、この部会ではなくて全体会で新たな部会を作ろうとした方がいい。

宝塚市協働のまちづくり促進委員会 協働のマニュアル検討部会(第2回 第5期・第2回)ご意見一覧(抜粋)

No	項目	発言者	意見(抜粋)
23	(4) 今後のマニュアル部会の進め方について	事務局	協働契約もかなりボリュームが大きいので、作業班2本立てで並行に進めるのは難しいと考える。促進委員会全体としては、全体会の話になってくと思うが、協働契約というところを1つまずゴールへもって行って、マニュアル部会の作業班を作るのはその次、というようなこともご配慮いただけると非常にありがたい。
24	(4) 今後のマニュアル部会の進め方について	委員	1つ片づけてからもう1度どういう形で見直し作業班を作るのか、作らないで別枠の問題点・全体的な問題点を洗い出すのか、その先またそういうテーマがあるということを考えながら進めたらいいのではないかと思う。
25	(4) 今後のマニュアル部会の進め方について	会長	マニュアルの検証をしながら付加すべきこと修正すべきことをより充実させていくということで、それは作業班を立ち上げさせていただいて、作業班と部会で繰り返して進めていくというやり方。ただし、協働の契約のガイドラインが佳境に入っているので、協働のマニュアルの検証はそれが一段落するまでは少し置いておくということではいかかかという結論だったと思う。